

平成 28 年度 事業計画

I 方針

好調なインバウンドは関西・大阪の経済の底上げに大いに寄与しているところであり、今、これを持続すべく様々な取組みが模索されております。大阪国際フォーラムにおいても、国際交流都市大阪の観点から持続可能なインバウンド事業についての議論をするとともに、歴史と文化、産業の町大阪の発祥の地を紹介してまいります。

また、関係団体と協力して、中国と韓国との新たな交流事業や関西・大阪の発展に資する事業に取り組んでまいります。

II 事業の実施に関する事項

(1) 日中韓学生交流事業

日中韓の関係は、アジア太平洋地域における最も重要な関係であり、領土問題等の政治的緊張関係が時として起こった場合でも、相互の人的交流と友好関係は未来志向で発展させていかなければならない。こうしたことから、次代を共に担う青年の民間交流を積極的に進めていく必要があり、今年度は日中韓の学生がともに行動しながら、各国を訪問して文化や経済を学ぶ交流事業を関係団体との共催事業として開催します。

(2) 地震予知国際フォーラム

熊本地震の発生とその活発な余震活動は、活断層が多く走る日本列島で、地震の活動期に入ったことを想起させるものです。また、南海トラフ大地震（東海、南海、東南海）の発生の確立が高まってきており、地震予知技術の進歩が求められています。こうしたなか、地震の前兆現象の解明や、予知技術の研究成果等について、昨年度に今年度も関西サイエンスフォーラムとの共催で、市民を対象とした公開講演会を開催します。

(3) 持続可能なインバウンド

好調なアジア経済と円安を背景としに、大阪への訪日外客数（インバウンド）は 2015 年には 700 万人を超えました。瀑買いもさることながら、四季の織りなす風景や伝統美、また繊細な日本食を求めての日本の魅力も高まってきています。今こそ「国際交流都市」という視点から、関が西・大阪がもつ魅力を大きく発信し、持続可能なインバウンドに結びつけていくことが求められています。そこで、持続可能なインバウンド事業とは何かを議論し、新たな関西・大阪の活性化の可能性を探っていきます。

(4) 上町台地今昔案内（散策マップ）の発刊とシンポジウム

「大阪」の発祥の地ともいわれる上町台地をわかりやすく案内し、文化施設やレストランを紹介し、観光や歴史散策に便利な地図を作成します。

また、発刊を機に古来より上町台地を中心に発展してきた「大阪」の魅力を考え、発信するシンポジウムの開催を検討してまいります。

(5) 中之島今昔案内（散策マップ）の発刊

これまで日本語版と英語版を併せて 90 万部の散策マップを発刊してまいりましたが、増加する内外からの来阪客のために、本年も散策地図第 5 号（日本語版）を発刊してまいります。今回は近世から近代にかけて、商都大阪の繁栄を築いた地域としての中之島にスポットを当ててまいります。

(6) その他

協力関係にある団体が実施する、関西・大阪の国際化や国際交流に関する事業について、共催、後援などを通じて協力し、当該事業の推進に協力していく。

また、日中韓の相互交流の視点についてとくに民間交流について、著名な学者を招いてのシンポジウムの開催を検討する。

これまで続けてきた「中之島国際音楽祭」についても、アジアとの交流をテーマにした音楽祭の開催を検討してまいります。